社会医療法人加納岩　広報誌

かのいわ日和

Kanoiwa Days

地域と創る
地域を守る

Vol.4
2026.10

特集 グループ紹介 医療法人 千歳会
ケアホーム花菱

連載企画
やまなしまちめぐり
医療法人甲療会 赤坂台病院
荒井 舞さん

特集
vol.4
グループ紹介

社会医療法人加納岩グループ 医療法人千歳会 介護老人保健施設

ケアホーム花菱

その人らしい暮らしに寄り添う

2023年、社会医療法人加納岩グループに介護老人保健施設ケアホーム花菱が加わり、医療と介護が一体となった支援体制が実現しました。本特集では、ケアホーム花菱が大切にしている想いと、利用者さまの「その人らしい暮らし」に寄り添う取り組みについてご紹介します。

介護老人保健施設ってどんなところ?

介護老人保健施設は、病院での治療を終えた後、すぐに自宅で生活することに不安がある方が、リハビリや介護を受けながら在宅復帰を目指す施設です。食事や入浴などの日常生活を支えるとともに、「自分でできること」を少しずつ増やし、住み慣れた地域での生活へつないでいくことが、介護老人保健施設の大切な役割です。

利用者さまと職員の笑顔が行き交う、あたたかな雰囲気に包まれています

技能実習生も活躍中!

多職種で支えるチームケア

ケアホーム花菱では、利用者さま一人ひとりの意思を尊重し、医師、看護師、介護士、栄養士、リハビリ専門職などが、それぞれの専門性を活かして多職種チームで連携し、利用者さまの状態や希望に合わせた支援を行っています。「明るく、家庭的で温かい雰囲気」を大切に、笑顔で安心して過ごせる毎日を支えています。また、デイケアやグループホームも併設し、利用者さまやご家族の幅広いニーズに対応しています。

わたしたちが利用者さまのサポートをしています

医　師

看護師

介護福祉士

介護支援専門員
(ケアマネージャー)

事　務

支援相談室の皆さまに聞きました

河西さん　介護支援専門員
真道さん　支援相談員
奥野さん　介護支援専門員

Q&A どのような相談が寄せられ、どのように寄り添っていますか？

施設への申込みや介護保険制度、家族の介護に関する悩みなど、相談内容はさまざまです。生活状況や入所を考えたきっかけを丁寧にお聞きし、話しやすい雰囲気を大切にしながら、言葉の奥にある想いやニーズをくみ取ります。相談内容を多職種や関係機関と共有し、必要な支援につなぐことも私たちの役割です。

Q&A 印象に残っている出来事を教えてください。

介護に悩み、涙を流していたご家族が、お話を伺ううちに表情が和らぎ、「気持ちが楽になった」と話してくださったことが心に残っています。また、「花菱さんはいい施設だよ」と紹介を受けて相談に来られる方もおり、利用者さまやご家族に真摯に向き合ってきた積み重ねが、地域の信頼につながっていると感じています。

Q&A これから目指す施設の姿を教えてください。

一人ひとりの尊厳と自由を大切に、その人らしい自立と生活の楽しみを支えられる施設を目指します。利用者さまやご家族の想いを多職種で共有し、ボランティアの受け入れや研修会への参加を通じて、地域に開かれた施設として、地域福祉の充実に貢献していきます。

フラダンスや園児との交流など地域のボランティアとの協力を得て、利用者が楽しんで過ごせるよう様々な活動を行っています

限定動画配信中

花菱をもっと！知りたい方はコチラ

管理栄養士・栄養士

理学療法士

作業療法士

支援相談員（社会福祉士）

加納岩総合病院

「学ぶ場」から「組織を変える場」へ

加納岩共創塾

「Kanoiwa Co-Creation Academy」始動

医療を取り巻く環境は、かつてない速さで変化しています。診療報酬制度の改定、医療従事者の不足、地域の高齢化、病院経営の厳しさ、そしてDX・AIの急速な進展。こうした変化の中で、地域医療を守り続けるためには、経営層だけでなく、一人ひとりの職員が病院の未来を「自分ごと」として考えることが求められています。

そこで加納岩総合病院では今年度、中澤院長が有志を募り、次世代リーダー育成プログラム「Kanoiwa Co-Creation Academy（KCC Academy／加納岩共創塾）」を開塾しました。

加納岩総合病院が大切にしてきたのは、「ホスピタリティー&コミュニティ」という考え方です。その原点には、理事長が掲げる「人に始まり、人に在りて、人に尽きる」という言葉があります。医療も、経営も、組織文化も、すべては人から始まり、人へと帰結する—。KCC Academyは、この理念を単なる言葉として掲げるのではなく、日々の業務や病院経営の具体的な行動へとつなげるための取り組みです。

名称にある「Co-Creation（共創）」には、院長や経営陣だけが病院の未来を考えるのではなく、職種や部門、役職の垣根を越え、現場で働く職員がともに考え、ともに創っていくという思いが込められています。役職者だけでなく、これから病院の中心を担うミドル世代にも広く参加してもらい、加納岩総合病院の現在地と将来像を共有する場を目指します。

プログラムは月1回、1年間、全12回を予定しています。テーマは、病院理念やホスピタリティーの本質、地域医療における役割、診療報酬改定、病床戦略、在院日数、人件費と生産性、DXと業務改革、組織文化、心理的安全性など多岐にわたります。講義を聞くだけではなく、部門横断型のディスカッションやグループワークを中心に進め、それぞれの職場が抱える課題と解決策を具体的に考えていきます。

KCC Academyが目指すのは、部門間の壁を越えて対話が生まれ、数字や理念が日常の言葉として自然に語られる組織です。一人ひとりが病院の未来を考え、互いの知恵や経験を持ち寄ることで、地域からより信頼される病院へ。加納岩総合病院は、「人に尽きる病院」の実現に向け、新たな一歩を踏み出します。

約40名の参加申し込みがありました!
(強制ではなく、参加できる回に参加でOK!)

中澤院長の
分かりやすい
講義

お菓子を食べながら、
ざっくばらんで
和やかな雰囲気での
グループワーク

放射線課
中　澤

入職して12年がたちました。

全国の一般病院の7割が赤字経営であり、そんな厳しい時代だからこそ今回KCCAの受講を決めました。

診療報酬改定や地域人口の変化など病院を取り巻く環境が日々変化すること、ALOS(平均在院日数)、救急応需係数など…、難しい話がたくさん出てきますが、受講するたび大きな刺激になっています。

専門職としての経験から経営につなげることを目標に頑張りたいです。

情報サービス課
宮　下

毎月のKCCAは、病院が目指している方向や未来のビジョンを共有できる貴重な時間です。

他職種の皆さんの熱い思いを直接聞けるのもKCCAの魅力だと感じています。

「地域の皆さんの健康を守ること」と「病院の経営」を両立させていくために、何ができるか考えるきっかけとなりました。

日下部記念病院

技能実習生 スピーチコンテスト 出場報告

～言葉の壁を越えて、心を通わせるケアを目指して～

先日、開催された「山梨県外国人介護職員 日本語スピーチコンテスト」に、当院で働く技能実習生が出場いたしました!

このコンテストは、県内の企業や医療・福祉現場で働く技能実習生たちが、日頃の日本語学習の成果や、日本での生活・仕事を通じた気づきや想いを発表する場です。

「患者さんの『ありがとう』が、私の心を温かくしてくれる」

当院から登壇したポクレル・ディアマニさんは、緊張した面持ちながらも、堂々とした表情でステージに立ちました。

スピーチでは、来日当初の言葉や文化の違いによる戸惑いや、それをどのように乗り越えてきたかを素直な言葉で語ってくれました。特に、日常の業務の中で患者様からかけられた「ありがとう」という一言がどれほど心の支えになっているか、そして「患者さんに安心していただける介護福祉士になりたい」という強い想いが語られると、会場からは大きな拍手が送られました。

表彰式では、新人賞を受賞され、お名前を呼ばれた瞬間のご本人の表情は、嬉しい気持ちと自信に満ちた頼りがいのある姿でした。

出場者コメント&技能実習責任者の声

本人コメント:

「この度は、スピーチコンテストに参加する機会をいただき、本当にありがとうございました。とても緊張しましたが、皆さんの発表から多くのことを学ぶことができ、とても良い経験になりました。これからも日本語を勉強し、成長できるよう努力してまいります。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。」

技能実習責任者:

「業務の合間を縫って、毎日一生懸命スピーチの練習をしていました。本番での成長した姿を見て、胸が熱くなりました。言葉の面だけでなく、患者様を思いやる心はすでに周囲にも素晴らしい影響を与えてくれています。」

広報編集部より

当院では、多様なバックグラウンドを持つスタッフが互いに支え合い、患者様に安心していただける医療サービスを提供できるよう取り組んでいます。

言葉や文化の違いを認め合い、共に成長していく姿勢は、病院全体に温かい風を吹き込んでくれています。これからも頑張る実習生たちを、病院全体で温かい支援を実践してまいります。

写真提供:山梨メディカルケア協同組合

グループホーム「ふえふき」・就労継続支援B型事業所「すずらん」よりメッセージ

新たなサービス管理責任者を迎え、より安心していただける支援へ

いつも日下部記念病院ならびに当事業所の運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、グループホーム「ふえふき」に新たな所長として宮原亜紀が着任いたしました。また、就労継続支援B型事業所「すずらん」に、サービス管理責任者として井川幸太が着任いたしました。

「ふえふき」は、ご利用者さまがお一人おひとりのペースで「その人らしい生活」を送ることができるよう、日常のサポートや自立に向けた支援を行っています。

「すずらん」は、精神障害のある方を対象として就労の機会を提供させていただき、「自立した社会生活」を営むことを目的として訓練・支援をさせていただきます。

新体制となりましても、病院併設という強みを活かし、医療と福祉が密に連携した安心・安全な環境づくりに一層努めてまいります。

着任のごあいさつ

このたび、ふえふきの所長を務めさせていただくことになりました宮原亜紀です。地域の皆様に支えられながら運営に携われることに深く感謝申し上げます。利用者さまが安心して生活できる環境の整備と、支援の質向上に努めるとともに、地域に開かれた施設としての役割を果たしてまいります。今後も、地域との連携を重視し、信頼されるホーム運営に誠心誠意取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

事 業 所 名：ふえふき
提供サービス：グループホーム
所　　在　　地：山梨県山梨市上神内川1321-1
お問い合わせ：TEL 0553-22-1223（代）
担　　当：石原 または 大河内

このたび、すずらんのサービス管理責任者を務めさせていただくことになりました井川幸太です。サービス管理者としての経験は浅いですが、利用者様の事を一番に考え、思いに寄り添いながら安心して過ごせる場所づくりを目指してまいります。また、地域の関係機関の皆様ともこれまで以上に連携を深め、良い支援の輪を広げていきたいと考えています。ご相談や見学の希望など、どうぞお気軽にお声がけ願います。すずらんの魅力が伝わるよう精一杯努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

事 業 所 名：すずらん
提供サービス：就労継続支援B型事業所
所　　在　　地：山梨県山梨市上神内川1363 日下部記念病院内
お問い合わせ：TEL 0553-34-5080（代）
担　　当：井川 または 有井

ご利用者さま一人ひとりの強みを活かし、自立した地域生活をサポートしています。
見学やご相談、体験利用など、まずはお気軽にお問い合せください。

山梨リハビリテーション病院

連載企画
やまりは人

シリーズ「やまりは人」は山梨リハビリテーション病院で働くスタッフを紹介する企画です。第4弾では、事務部長を務められる坂本事務部長をご紹介します。山リハを陰から支える事務部長が考える当院の魅力や知られざる一面についてご紹介します。

Q 山梨リハビリテーション病院の特徴を教えてください。

私が就職した時は山梨温泉病院の名称でした。当時は、温泉療養としてのリハビリを行っていました。現在の当院の特徴である回復期リハビリ病棟に転換した時にリハビリに特化した専門病院として歩んでいくため、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士に関連する職種の方を多く採用し、看護部もリハビリ看護を進め、2006年に“山梨リハビリテーション病院”へ名称を変更しました。県内でもリハビリ病院が多い地域ではありますが、全職員がリハビリの質を高めるために取り組んでいる病院だと思います。

Q 事務部長はどんなお仕事をされていますか?

事務管理全般を行いますが、それ以外にも病院の管理など多岐にわたる仕事をしています。いわば病院のなんでも屋さんのような仕事ですかね（笑）。各部署からの相談を受け、各部の部長との調整役にもなっています。スタッフが心地よく働ける場所であり、患者様にも安心して過ごしていただける病院を目指し、環境整備にも力を入れています。

Q 当院スタッフへメッセージはありますか?

専門職として日々努力していただいているので、皆さんのスキルアップと病院全体の質の向上を図れるように協力させていただきたいと思ってます。皆さんと一緒に楽しく働いていきたいです。

Q お気に入りの場所はありますか?

実家が北杜市にあり、標高が高い地域であるため、盆地越しに富士山を見ることができます。実家の庭から見る富士山がとても綺麗で気に入っている場所です。

新管理棟ルームツアー
with 坂本事務部長インタビュー

当院では、1月に新管理棟が完成し、新しい環境での運用がスタートしました。

1階のコンセプトは「日々の食と栄養の面から医療を支えるフロア」として、職員食堂、給食室、栄養課などが設けられています。

2階は「医療スタッフの連携と運営を支えるフロア」として、医局や職員更衣室、院長室、看護部長室、会議室などが配置され、職員がより働きやすい環境が整いました。

新管理棟は職員が日々の業務を円滑に行うための拠点であるとともに、多職種が交流し、連携を深める場としても活用されています。特に職員食堂は、さまざまな職種のスタッフが集い、コミュニケーションを育む、ほっと一息つける場所となっています。新たな環境のもと、これからも地域の皆さまに信頼される病院を目指し、一人ひとりに寄り添った医療・リハビリテーションの提供に努めてまいります。

職員食堂

食器洗浄室

栄養給食課

休憩室

職員更衣室

WEB研修室

最後に、このたび新管理棟の設計から携わった当院の坂本事務部長に設置へのこだわりを伺いました。

Q 新管理棟の設計にあたり、力を入れた点はどこですか?

まずは厨房設備です。設備が老朽化していた為、食事提供ができなくなる不安を解消することから始まりました。栄養・衛生面の基準を改善したほか、点在していた職員の更衣室を1か所に集約しました。また、過去の大雪で帰宅できない職員がいた経験や、新型コロナウイルス感染症流行時に寄せられた要望を踏まえ、緊急時に利用できる宿泊スペースやシャワー設備を整備しました。さらに、壁を高くするなど、災害への備えも強化しました。

10年ぶりの復活祭!!

加納岩健康フェス2026

「地域と病院が繋がる日」
～医療を通したまちづくり～

開催日時 2026.11.8(日) 10:00～15:00

入場無料
どなたでもご参加いただけます

会場 加納岩総合病院・日下部記念病院・正面駐車場

イベント内容

- 日川高等学校 書道部パフォーマンス
- 山梨市民吹奏楽団 演奏
- 世界チャンピオン 高橋靖彦選手による ラートパフォーマンス・体験!

- ●骨密度測定
- ●運動機能の健康チェック
- ●お薬相談所
- ●非常食を作ってみよう！食べてみよう！
- ●血管の硬さ・血管年齢計りませんか？
- ●糖尿病啓発コーナー
- ●脳外科医による健康講座

- ●お子様向けミニゲーム
- ●AED体験
- ●わくわく病院探検ツアー！
- ●デイケア紹介ブース
- …などなど

キッチンカーや無料わたがしなどもあるよ!

※イベント内容は変更になる可能性があります

アクセス

お車でお越しの方→加納岩総合病院駐車場をご利用ください
※数に限りがあるので、公共交通機関をできるだけご利用ください

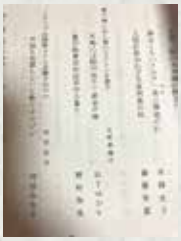
電車でお越しの方→JR中央線 山梨市駅から徒歩5分
※山梨市駅から加納岩総合病院までのアクセス（Google Map）→

主催：加納岩健康フェス2026実行委員会

多趣味なヒト③

山梨リハビリテーション病院
看護部 3階病棟 山下ゆかり

茶道の魅力



私の若い頃は花嫁修行で茶道、華道、着付けの習い事をする人が多く、師範の免許を取得して花嫁道具として嫁ぐ人もいました。

私も華道と着付けは習いましたが、茶道は縁がなく「敷居が高い」という印象を持っていました。

3年前、茶道を普及したいという思いを持つ方と出会い、野点（のだて）をお手伝いするようになりました。その方は80歳近くになりますが、日本の伝統文化である茶道を何とか後生に残したいという強い思いを持っています。お手伝いを続けるうちに、私自身も本格的に茶道を学びたいと思うようになり、「六十の手習い」として始めました。

茶道を始めて感じた魅力は、おもてなしの心や日本文化を学び、それを実際に体感できることです。茶道は「日本の総合芸術」ともいわれています。亭主と客の関係、四季を感じるしつらえ、お茶を点てる一服に込められた心、「この一服は一生に一度の出会い」という意味を持つ『一期一会』、その瞬間を大切に生きるという『日々是好日』など、多くの学びがあります。

また、使われている道具一つひとつにも、おもてなしの目的に応じた意味や歴史が込められており、本物を見極める力や美しいものを見る感性も養われます。

便利さが優先される現代だからこそ、このような日本の伝統文化を大切にしていきたいと感じています。

もう一つの趣味は、60歳を過ぎて始めた酒折連歌です。山梨は酒折連歌の発祥の地とされています。酒折宮では日本武尊（やまとたけるのみこと）が問いの句を詠み、かがり火を焚いていた老人が答えの句を詠んだことが連歌の始まりと伝えられています。

俳句や短歌とは異なり、問いの片歌と答えの片歌が会話のようにつながっていくところが酒折連歌の大きな魅力です。

やまなし まちめぐり

**やまなしまちめぐりは日常を彩る地域の拠点を紹介する連載企画です。
第3回は、山梨で活躍する「人」にスポットを当て、病院の事務局長を務めながら、様々な活動を通して「人」の繋がりを育み、「安心して、元気に、一歩踏み出す」きっかけ作りに尽力する荒井舞さんを紹介します。**

No.3 荒井 舞さん

■医療法人甲療会
赤坂台病院　理事・事務局長
■一般社団法人 未来つなぐ　理事
■キッズキッチン山梨　代表
（キッズキッチン協会認定インストラクター）

医療法人甲療会　赤坂台病院では、理事・事務局長として病院経営や地域連携に携わり、キッズキッチン山梨では、代表として子どもの料理教室を開催し、「食」を通して生きる力を育む食育活動を続けています。

一般社団法人未来つなぐでは、行政、企業、学校、地域団体、学生等をつなぎ、それぞれの強みを活かした地域プロジェクトを企画・運営しています。

医療法人甲療会 赤坂台病院

“病院は関わる人の幸せを願い、育む場所へ”

病院で働く中で見えてきたのは健康や暮らしの課題は、医療だけでは解決できないということでした。子育てや教育、介護、孤立など、人が暮らす環境そのものが健康に深く関わっています。だからこそ、「地域全体が元気になることが、人の健康や幸せにつながる」という想いを胸に、行政や企業、学校、地域団体など多様な人々と協働し、人と人がつながる地域づくりに取り組んでいます。

病院で開催していた秋祭りでは、患者さんやご家族、地域の皆さん、園児、行政、企業、職員など、多くの人が参加し、お祭りの最後には夜空に花火が打ち上がります。同じ空を見上げ、笑顔を交わすその時間は、「病院は治療をする場所」だけではなく、人と人とがつながり、地域の温かさを感じられる場所でもあることを教えてくれます。

地域活動を通して得られる出会いや経験は、病院にとっても大きな財産です。地域で暮らす人々の声や想いに触れることで、病院の中だけでは見えない地域の暮らしや課題を知り、「地域にとって本当に必要な病院とは何か」を考えるきっかけとなります。病院は地域を支えるだけではなく、地域から学び、育てられる存在でもあります。その学びが再び地域へ還元される―そんな循環こそが、地域共生のまちづくりにつながると考えています。

赤坂台秋祭り

キッズキッチン
地域とのつながりの大切さを実感した経験が、荒井さんの現在の活動の原点となった

未来つなぐ
人を想う気持ちが人をつなぎ、そのつながりが地域の力となる。未来つなぐは、地域のみなさんと共に、誰もが安心して暮らし、挑戦できる持続可能なまちづくりを目指している

Message

私は、病院が地域の中で「安心して帰ってこられる場所」であってほしいと思っています。病気やけがをしたときはもちろんですが、地域のイベントや健康づくり、様々な交流を通じて、普段から顔の見える関係が育まれている。そんな病院が理想です。

地域にはたくさんの素敵な人がいて、それぞれが誰かを想いながら暮らしています。病院もその輪の中に入り、人と人とのつながりを育みながら、人の幸せを願う気持ちが人をつなぎ、地域を元気にしていく。そんな循環が生まれる病院になれたら嬉しいですね。

加納岩グループ

■加納岩総合病院
山梨市上神内川1309　TEL:0553-22-2511

■日下部記念病院
山梨市上神内川1363　TEL:0553-22-0536

■山梨リハビリテーション病院
笛吹市春日居町小松855　TEL:0553-26-3030

■甲府北口駅前
リハビリテーションクリニック
甲府市北口2-9-12　TEL:055-242-6001

■東山梨訪問看護ステーション
山梨市上神内川1126-2　TEL:0553-22-8894

■社会復帰施設
グループホームふえふき
山梨市上神内川1321-1　TEL:0553-22-1223

■就労支援B型事業所 すずらん
山梨市上神内川1363　TEL:0553-34-5080

■リハケアセンターきらり
通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション
笛吹市春日居町小松855　TEL:0553-21-6017

■医療法人 千歳会
ケアホーム花菱
南アルプス市田島1105　TEL:055-280-8700

■社会医療法人 加納岩
山梨市上神内川1309　TEL:0553-39-9720

発行元：社会医療法人加納岩